

C O R R E N T E

Centro Culturale Italo-Giapponese

イタリア留学で学んだ “聞くこと” “話すこと” の大切さ①

古久保 希

私は、今年3月から6月までの3か月間、イタリア語習得のためにボローニャとトーディに滞在しました。

語学留学を決めたのは、単にイタリアが好きという理由だけ。イタリア語を勉強して将来どう活かすという目標もなく、収入がなくなる心配もありましたが、後押しになったのは、職場の方からの「思いが強いうちに行っておいで」という言葉でした。予算の都合上、3か月の滞在でしたが、イタリアでさまざまなことを学びました。

<スケジュール>

- 3月29日 出発
- 3月30日～4月1日 パドヴァ観光
- 4月2日 パドヴァ⇒ボローニャへ移動
- 4月3日～4月28日 ボローニャに滞在
語学学校に通う
(ボローニャ滞在中、モデナ、ラヴェンナ観光)
- 4月29日～5月6日 ペルージャと近郊観光
- 5月7日 ペルージャ⇒トーディに移動
- 5月8日～6月2日 トーディに滞在
語学学校に通う
- 6月3日～6月25日 フォリーニョ、アレツツォ、
オルヴィエート、ローマと近郊都市(フラスカー
ティ)の観光
- 6月26日 帰国



【パドヴァ】

<ヒアリングの弱さを痛感しクラスを移動>

季節は春。今までイタリアへは冬にしか行ったことがなかったので、3月下旬の出発前から晴れた空を想像して、楽しみで仕方ありませんでした。事前のスケジュールはボローニャとトーディでそれぞれ4週間イタリア語を勉強し、それ以外の日は行ってみたいと思っていた都市を訪れることにしました。

イタリアでは、最初にパドヴァ観光をするので、パドヴァのホテルを予約して、いざ出発。

最初に滞在したパドヴァでは、イタリア名物(?)の落書きを見ました。クオリティが高く、看板の役割も果たしている模様。パドヴァは街全体がきれいな印象でした。

夜はどこかでライトアップがされていたら見たと思ったので、ホテルのレセプションに聞くと「夜はとても危険だ」と外出を止められました。私のイタリア語が拙かったから面倒がられたか、ホテルの客がトラブルに巻き込まれたら経営に関わると思われたのか真相は分かりませんが、ここは親切心だったと思うことに。次に行く時は下調べをした上で、敢えてレセプションに聞いてみて、会話が成り立つか試してみたいと思います。

その週末の日曜、いよいよ語学学校のあるボローニャに移動。駅ではテロを警戒して警察がいました。私は挙動不審だったようでパスポートチェックをされました(コピーを見せました)。事前に見たトラブル事例に「警察を装ってパスポートチェックをしてくる」とあったので、身構えましたが、どうやら本物だったようです。イタリアに到着する前、ヨーロッパではテロ事件が相次いでいたので、イタリアの各都市の駅や広場で警備の姿をよく見かけました。

4月3日、ボローニャでの勉強が始まりました。最初にぶち当たった壁は、やはり言葉でした。特にヒアリングが壊滅的。住居のお世話になる家主さんとうまくコミュニケーションが取れず、大家さん、けっこうウンザリ顔。もうちょっと隠して!(笑)。授業ももちろんイタリア語で進むのですが、日本で習った文法の説明はなんとか分かるものの、先生の「では〇〇をやってみましょう」と言う内容が分かりません。二人一組になったドイツ人も説明してくれるものの、だんだんイライラしてくるのが

目に見えて、泣きたい気持ちでいっぱいでした。

そんな私を察して、先生はクラスを変えるよう助言してくれました。聞いた時は参っている状態だったので、自分のできなさにショックを受けましたが、結果的に変わって良かったです。身の丈って大事です。

変更したクラスでも、ヨーロッパ圏、英語圏の人たちは、先生の話すすんなり吸収していました。語源が同じとはいえ、こうも違うものなのかといまだに不思議です。

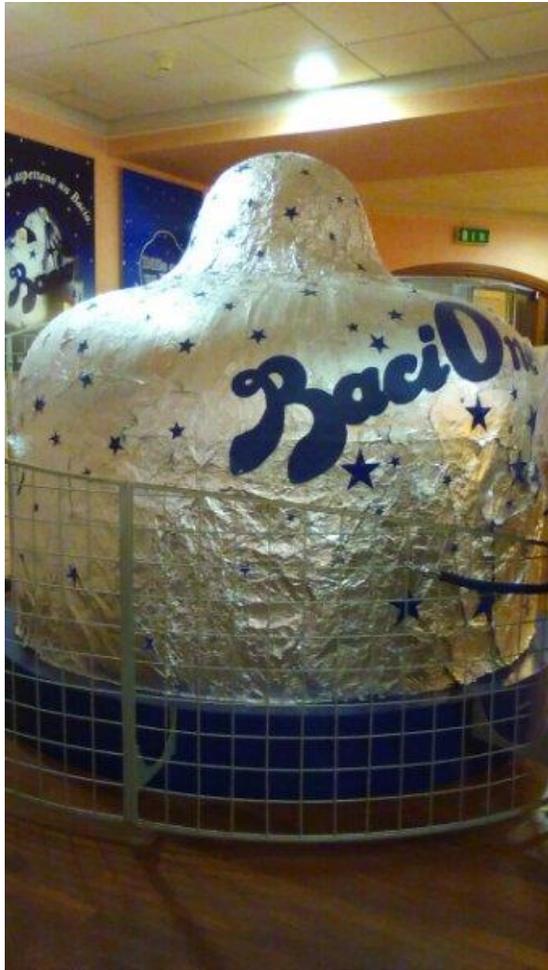
授業が終わった後は学校のアクティビティ(市内案内やエトルスキ文明の話等)やイタリア文学の講義にも参加しましたが、ここでも彼らは歴史の説明に耳を傾けていました。教会の話をしている時、彼ら曰く「私たちはキリスト教だから理解しやすい」と言ってくれるのですが、いやあ、きっとそれだけじゃない。私には何を言っているか、聞き取るのだけで必死なのよ…。最後までよく理解できなかった私ですが、先生達は嫌な顔ひとつせず説明してくれたことに感謝しています。もっと勉強して、もう一度聞きに行きたいです。

この時のエトルスキ文明の話を沢山聞いたのと、大学でエトルスキ文明の壺の授業を受けていたことで、この後の旅でエトルスキ文明を扱う博物館へ積極的に行きました。詳細は理解できないままですが、繰り返し目にする単語が出てきたり、この文明が思っていたより広範囲に栄えていたことが分かったりと、より楽しむことができました。

また、クラスが変わったおかげで大切な友達に出逢いました。自分の感情に正直で、いつも励ましてくれる明るいブラジル人の子と、ジェラート作りを勉強するためにイタリアに来た頑張り屋で優しい韓国人の子。2人と一緒だったおかげで、ボローニャ生活はより楽しいものになりました。お別れした後も常に温かいメッセージをくれるその2人との出逢いは、一生の宝物です。

ボローニャでの生活を終えると、次の目的地はトーディ。ただ、その前にペルージャに1週間滞在することにしました。外国人大学が有名ですし、サッカーの中田選手が所属していたことで名前を聞いたことがある人も多いと思います。かの有名なbaciチョコを作っているPERUGINA社もここにあります。ペルージャでは、チョコレート工場の見学に

行ったり、近郊の都市へ日帰り旅行をしたり充実した1週間でしたが、寂しい思いが時々顔を出しました。日本では一人であることが好きな方ですが、長く日本から離れたことで、日頃の他愛無い会話が私の中でいかに大切なことだったのかと気がきました。



【巨大 baci チョコ(模型)】

トーディは自然がいっぱいある半面、交通の便は良くありません。車を運転できたらすごく便利だと思いが何度もありました。私が日本で住んでいる町に地形が似ているので、親近感を持ちました。地形の共通点は盆地と田舎です。

ホストファミリーは親切で、休みの日に Nonna の家に連れて行ってくれたり、所有している Villa に連れて行ってくれたりしました。その Villa で日本人と偶然の出会いがあったり、トーディの町の小さな広場で現地の子供と遊んだり、学校からは

他の町への観光や料理教室、化学肥料を使わない作物の栽培・加工をしている Fattoria 見学に参加しました。

日本人はいないだろうと思って決めた町でしたが、いざ学校に通い始めると、他にも日本人が勉強しに来ていたことに驚きました。しかも最後の週は生徒5人中、全員が日本人という奇妙な環境でした。語学の勉強に熱心な人ばかりだったので、話すのはイタリア語のみ。どうしてもややこしい説明をする場合は日本語を使用していましたが、意識の高いメンバーがいてくれたおかげで、自分自身の先を見据えることができました。この時このメンバーと一緒に勉強ができて、本当に良かったです。

イタリアで日本について聞かれる時、話題になることが多かったのが「福島」と「原発」の話でした。海外の人は原発の近辺の食べ物は危険だと言いました。私は「今はきちんと検査して基準をクリアしたものは食べられるよ」と説明するも、危険だと思われるようでした。日本国内でも危険だと考える人がいるのに、海外の人に安心してもらえるのは難しいのか、と思いました。私自身が、地元のものの方が安いので、あまり遠方の産地の野菜や果物は購入しないので説得力に欠けるのも原因なのでしょうか。積極的に東北のものを選んでないことにも気がきました。福井県の原発が徐々に再稼働して、今年8月に電気料金が下がりました。帰国して私は複雑な思いで電気料金の請求書を眺めました。

また、私の町が神戸に近いことを話すと、話題に出たのが「神戸牛が有名で高い」という話と地震の話。ウンブリア州の東、トーディ近郊のノルチャ、アマトリーチェでも近年地震があったことが記憶に新しいのではないのでしょうか。ウンブリア東部の町に日帰り旅行に行った折、地震の影響で入れない教会や観光スポットがありました。周りには復旧用の重機などは見当たりませんでした。次にウンブリアに行く時には中に入って見られませうように…。

(続く)

(当館語学受講生)

ローマで双子育児⑧

浅田 朋子

双子も3歳になり、公立幼稚園に通うことになった。

イタリアも日本と同じく、公立と私立幼稚園がある。公立幼稚園は給食費のみ負担である。公立幼稚園は9月中旬から始まるのだが、1月から2月末の間にローマ市のホームページからインターネットで申し込みを行う。私たちの住む家から徒歩3分の場所に公立幼稚園があり、当然私たちはその幼稚園を希望し、入園することになった。

ローマでは地域ごとに公立幼稚園の方針や教師の質にかなり違いがあるようだ。私たちの友人の息子が通う幼稚園は、なんと教師が薬物依存症で解雇されていた。日本ではちょっと考えられないタイプの学校教師がここイタリアにはいる。幸運にも双子の通うこの近所の幼稚園はかなり評判がよく、地域外からの希望者も多いようだ。

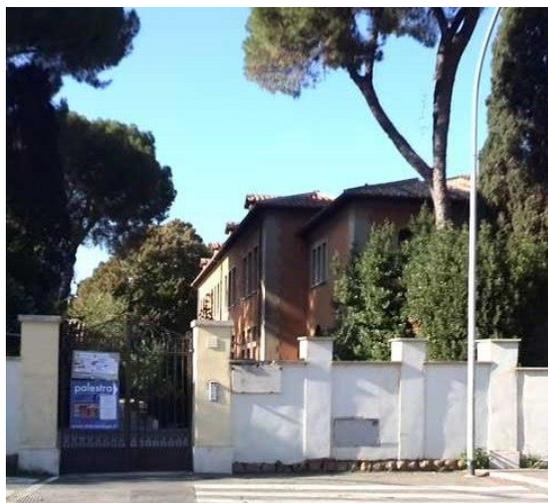
さて、インターネットでの申し込み、受入通知の後、「あーやれやれ」とほっとしていたが、気がつくくと数ヶ月何の音沙汰もない。

急に不安になり、幼稚園に直接行って聞いてみると「入園前に保護者説明会があるから」と言われた。「いつですか」と聞くと「うーん、そうねえ、6月の半ばかな？」と言う曖昧な返事。「保護者説明会の日はどうやって知ることができますか」「こちらから電話するから、心配しないで待ってて！」と言われた。

あなたたちからの連絡を待つ、それが一番心配やねんと思いつつ待っていると、「6月15日17時から保護者説明会をするから絶対に参加してください！」と6月10日に連絡がきた。いや、ぎりぎりやな、いつものごとく。親の仕事の調節を全く配慮しない突然の知らせ。「参加できない方は後日～」とかいう説明も何も無い、「来られる人は来て」

的な強引きである。さすがイタリアである。まあ、それでも仕事の休みがとれてしまうのもイタリアなのであるが。

さて、保護者説明会当日、ちょっと緊張しながら私と夫は幼稚園に到着した。私たちと同じマンションに住んでいるロシア・イタリア人ハーフの双子男児の父親も来ていた。私の唯一のママ友、ロシア人母親レーナは第三子出産直後でまだ病院に入院中なので、父親が参加したのである。事前に彼女から「あの人きつと説明ちゃんと聞いてこないと思うから、あとから教えてね」と言われていた。全く信用されていない双子男児の父に「クラス分け、一緒だったらおもしろいね、ハハハ」と言われた。



【幼稚園の外観】

このローマの幼稚園では、双子を同じクラスにするかどうか、親が選択できるようである。保護者会のお知らせの電話時に「双子を同じクラスにするかどうか」と聞かれ、急だったので「後から折り返し電話してもよろしいですか」と聞くと、「ダメ！今、今、答えて。今日クラス分けするから！」と言われた。ほんとうに何でも急である。年少クラスは慣れるために同じクラスでもいっただろうと夫と相談していたので、私は同じクラスを希望した。

説明会は講堂かどこかでするのかと思いきや、玄関ホールに適当に椅子を並べて、まるで雑談会のようなものである。ほとんどの親が立っていた。

「いまから説明会をはじめます」という号令もなく、親たちのおしゃべりの雑音の中、たぶん園長

と思われる年配の女性(自己紹介も何もないので不明)が「えー、そうですね、本当に暑いわね、今日は。6月なのに…。さて、えーと、何から話そうかしら…。まず、そうね。この園はきれいな庭があって、あ、そうそう、園の入口の木が茂りすぎて夏休みの間その剪定をするつもりです。教師の方々はみなベテランです。えー、そうね、この学校の建物は歴史ある建物で、まあ、みなさんごぞんじよね、えー、それより…」

この後の説明を私は全く聞き取れなかった。親たちの出す雑音、そしてこの園長のくぐもった声での要領を得ないしゃべり方で、ヒアリングする意欲がポッキリ折れたのである。



【園舎入口】

イタリアで説明を大勢で聞くという場面で毎回思うのだが、本当にイタリア人は、人の話を黙って最後まで聞けない性分なんだと思う。絶対に横やりが入るし、人が説明しているのに平気でわいわいがやがや勝手にしゃべっているのである。

横で真剣な顔をして説明を聞いている夫にこそっと「何言ってるか、わからへんねんけど…」と言うと「ぼくも、わからない…」と言われた。重要なことが全く会話の中で見えてこないのである。

「この園長の会話をイタリア語の聞き取り試験にしたら、きっと誰も合格しないと思う」と夫に言う。「いや、イタリア人もわからないと思う」と暗い顔で言った。実際まわりの親も「ねえ、何て？さっき

何かの日付言った？28日？何があるの？」「いま入園日のこと言ったの？」とかほかの親に聞いている。横にいる双子男児の父を見ると、スマホでメッセージのやりとりをして笑っている。

説明や行事カレンダー等、プリントにして渡してしまえばいいのに…と歯がゆさが100パーセントになるのだが、この国ではこういうことが全く期待できない。物事を合理的に短時間で済ませようとする気がないので「案内、利用、概要をまとめたプリント」というものを作る習慣がないのだろう。

「…クラス発表をします」20分ほどたった後、やっと意味の分かる説明ができた。親たちもハツとなって聞き入った。A、B、C、Dと4クラスあり、Bクラスが入園児を集めたクラスになっている。

なので、私たち双子とレーナちゃんの双子男児も同じクラスである。2組の双子、先生、大丈夫か…。

「さて、これからは各クラスに分かれて先生から直接説明があります」園長がそう言うと、これまでの支離滅裂な説明のヒアリングで疲労困憊した親たちから安堵のため息がでた。

私たちのクラスの担任はアンナ先生とアデレ先生である。アンナ先生は40歳代後半、アデレ先生は50代後半で、アンナ先生は体育会系のハキハキした感じであるのに対し、アデレ先生は優しく明るい近所のおばさんのような雰囲気である。

クラスの園児は20名。ほとんどの親が参加していたようである。その中で真っ赤な口紅にぱっちりメイク、全身流行の服で15センチはあるかというヒールを履いた美人のお母さんがいた。幼稚園の保護説明会にそんなに戦闘態勢で来んでもいいinchau?と思いつつみていると、アンナ先生の説明が始まったので慌ててメモをとる用意をした。

園長と違い、要領を得た簡潔な説明でようやくスケジュールがつかめた。しかし、ここでも説明プリントのような物はなく、みなそれぞれメモをとっていた。双子男児の父を見ると、携帯メッセージで妻に概要を送っているようである。説明会生報告。それを受け取るのは第三子を昨日帝王切開で出産し、傷の痛みで朦朧としながら病院のベッドで新生児の面倒をみるレーナちゃん。わたしだったら携帯切っとくけどな。

登園初日は9月15日で、午前8時から10時15分までの前半グループと10時30分から12時15分までの後半グループに分かれ、まず3日間親と一緒に慣らし保育が始まる。3日目はクラス全体で12時半まで、親は園内で待機する。その後昼食後14時半まで、最後は16時半までの通常保育となる。その他、持ち物や幼稚園に置いておく着替えなどの指示があった。

この説明をせっせとメモしていたのは私と戦闘態勢の美人お母さん、あと4、5人の親だけである。後はと言うと「うん、うん」と頷きつつもメモをとっている様子はない。覚えるのか、全部？すごいな！と危うく感心しそうになったが、いやいや、説明会が終わったとたんメモをとっていないグループが「あー、ちょっとスケジュール教えてくださいませんか？」とメモをとっている親に聞き、それを携帯にメモしている。メモ取るものも持ってきてないんか、説明会に…。日本なら説明を聞き逃したり、さらにそれを他人に聞くことを恥とを感じる人が多いと思うが、この国でそんなことを感じているような人を見かけたことがない。

最後に先生が「個人ファイルを作るのでこのプリント(やっとプリント登場)の項目を全部埋めてきてくださいね」と冊子を配った。中身を見ると緊急連絡先電話番号、送迎者のリスト、性格や癖、好きな物(おもちゃ、遊び、食べ物等)、友達の有無、何時間一人遊びしているか、大人と遊んだりテレビを見ている時間は何時間か、病気、アレルギーなどなど、びっくりするくらいの記載項目がある。かなりこと細かに園児のことを事前に把握しておきたいのであろう。このリストには感心した。全くイタリアの公立幼稚園に期待しておらず、きめ細やかな対応などないんだらうなと思っていたので、ちょっとほっとした。

調子に乗って「連絡帳はあるんでしょうか？」と聞いたら「ん？連絡帳って、何のことですか？」と返された。「えー、親と先生が子供の状態をノートに書いて毎日申し送りする、そういうのなんですけど…」「へえー、聞いたことないわねー。ないです」…やっぱりね。

クラスごとの説明会はあっさりとなり、なんだか分かったような分からないような、すっきりしない気持ちで教室に留まる親たち。「では皆さん、1

5日に元気に子供と園に来てください！待ってますよー！！」とアンナ先生のあつけらかんとした明るい声に押されながら、みなバラバラと解散した。

中途半端な説明会だったが、不思議と焦りはなく、まあイタリアだし、こんなもんか…と思うことにした。そして、双子のこれからの長い長い学校生活の始まりを実感しながら夫と家に帰ったのである。



【園庭の様子】

(元当館語学受講生)

編集・発行 / (公財) 日本イタリア会館
〒606-8302 京都市左京区吉田牛の宮町 4
TEL: (075) 761-4356/FAX: (075) 761-4357
E-mail: centro@italiakaikan.jp
URL: <http://italiakaikan.jp/>